

# 特集：宗教法人の資産運用理念を聞く①

## 年金運用モデルで将来の備え



総本山金剛峯寺執行財務部長  
高野山真言宗財務部長

竹井 成範氏



I F A 法人 M K 3 株式会社

松岡 弘頼氏

戦争や円安の影響で物価高が止まらない中、高野山真言宗は3月に行った宗会で、前年9月末に宗派が保有していたドル建て資産を全て円に換え、計1億2776万円の売却益を得たと報告した。また、宗派の資産運用規程を改定し、収益の安定化を目的に年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の運用手法をモデルとした長期分散投資を行う考えを示した。そこで、全国の寺院に資産運用のアドバイザー(IFA)の松岡弘頼氏と共に、同宗派の資産管理を担当する竹井成範財務部長にインタビューを行い、資産運用に対する僧侶ならではの考え方や、高野山真言宗で実践しているリスク管理について聞いた。

まつおか・ひろのり氏 1986年生まれ。みずほ証券に在籍した9年間で約2千人の個人・法人資産運用を担当し、2017年から現職。IFAとして、主に寺院の資産運用コンサルティングに従事。セミナー実績も多数。公益社団法人日本証券アナリスト協会認定アナリスト。

### リスク抑制へ 長期分散投資

一般的宗会で年金運用をモデルとした長期分散投資を採用することになった背景を教えてください。

竹井 将来的な物価上昇リスクに備えていく必要があると考えています。今回はドル建て資産の売却で大きく利益を計上することができましたが、為替市場の動きはプロでも予測が難しく、仮に外債投資で数%の利息を受け取って

も、為替差損の方がはるかに大きくなってしまつてもあり得るでしょう。商社勤務の経験から、その恐ろしさはよく理解しています。結果はたまたまとも言えるのですが、そのような運用よりも、長期分散投資の方がリスクを抑制しながらリターンを積み上げていけると判断しました。

### 両極端でなく 中庸の精神で

松岡 私も日頃からセミナーなどを通じて、長期分散投資による

## 周囲の理解得られる工夫を

高野山真言宗宗務所で行ったインタビューの様子(和歌山県高野町)  
企画協力 I F A 法人 M K 3 株式会社

### 運用成績評価 単年度はNG

松岡 とても大切なお金だからこそ、元本割れを避けようという一見安全に映る仕組などに運用資産が偏ってきたのが宗教法人の運用の歴史です。長期分散投資の価格変動を嫌う声もあるのではないのでしょうか。

竹井 仕組債が一概に悪いとは言いませんが、高い利率は高いリスクの裏返しでもあります。投資目的に照らし合わせて判断すべき

短期的な評価損は気にせず、PDCAサイクルでチェックを

たけい・せいはいん氏 1956年生まれ。関西学院大卒業後、大手総合商社に入社し海外営業を経験。退社後83年に得度し、85年に伝法灌頂。88年千光寺(岡山県倉敷市)住職に就任し現在名誉住職。宗会議員を10年務め、2021年から現職。

資産成長・リスク抑制を寺院の皆様に提案しています。そもそも寺院が資産運用を行うことについて、どのようにお考えでしょうか。仏教の精神と資産運用は両立できますか。

竹井 私自身も葛藤はあります。基本的に投資の世界はお金持ちが勝つものです。それが貧しい人に寄り添う仏教の根本精神と合うのかどうか、というのは難しい問題です。

しかしながら、我々僧侶もこの経済社会の中で生きていく限り、お金がなければ何もできません。伽藍を一つ直すにも、現実的には業者をお願いすることになります。「運用なんてしからん」と否定的な意見をいただくこともありますが、両極端ではなく中庸の

精神で、皆さんの理解が得られやすい形で取り組むことができれば良いのではないかと思います。

松岡 宗教者であること、宗教法人の運営者であることの両立が求められると言つていいですね。

竹井 そう思います。その点、GPIFの長期分散投資は理解を得やすいと考えています。国がこの方法で国民の年金を運用して相応の実績もあるわけですから。今の急激な物価上昇を鑑みれば、本来はもっとアクティブな運用をしていかなければいけないのかもしれませんが、内局がすべきことは周囲の理解を得られる手段を講じることです。

そもそも、当山の収入の安定性を考えれば大きなリターンを狙う必要はありません。最も大切なこ

けながら継続していくことが大切です。これからは資産運用の王道を歩かなければいけません。単年度評価では、私の後の財務部長も困ってしまいます。懸念は必ず持たれますが、本当にノリスクなものは無利息の決済性預金くらいです。お金の価値が下がっている中で、お金にも動いてもらう必要があると思います。

運用の管理は  
第三者に相談

松岡 投資判断はどのように行つていきますか。例えば内部に運用に精通した金融機関出身者などはいいますか。

竹井 事業会社のような専任の運用担当者があるわけではないので、独立系ファイナンシャルア

バイザー(IFA)や金融機関OBを交えて運用管理を行つていきます。金融機関とは異なる第三者の専門家に入ってもらつことで、利益相反を防止しています。

松岡 素晴らしいガバナンスですね。基本的に金融機関のミッションは商品の販売なので、依存しないことが大切です。

竹井 その他にも、職員には運用の立案書を作成させるようにしています。例えば、御遠慮の事業で将来的にいくら必要になるかを考えてもらいます。必要額を運用目標に定め、各社の提案商品の想定収益と照らし合わせて投資判断の参考にします。結果的に実績が届かなければ、その時の身の丈に合ったことをやっていけば良いのです。私はいずれ役職を辞します

が、職員はこの先も動めていくことになり、運用規程や商品の選定経緯を明確化しておくことが求められます。元の木阿弥になつてしまつたら困りますから。

松岡 日頃から寺院の皆様にお伝えしてきたことばかりで、とても感銘を受けています。

竹井 個人的な見解ですが、世界一の債権国である日本がデフォルトすることは考えにくいですが、ここまで積み上がった国債残高を実質的に解消するために、高いインフレ率を容認していく可能性はあると思つています。手をこまねていることが良いとは言えないのではないのでしょうか。

(30日付に続く)



とは、お大師様の信者さんが寄付して下さったお金を大事に使つてです。これは運用に限つたことではなく、例えば金剛峯寺の工事や物品購入などには、必ず相見積もりや入札をするよう徹底しています。業者さんにも公正正大な取引をお願いしているのです。